

# チェックリスト（臨床実習経験表）

見学 ・ 評価Ⅰ ・ 評価Ⅱ ・ 総合Ⅰ ・ 総合Ⅱ

**<記録する上での注意点>**

実習期間中に経験させていただいた事項を経時的に記録をとってください。

手順：**1週間毎**に学生自ら記録をしますが、**必ず指導者の先生同席のもと**で記録をつけて下さい。

なお、同一週で複数回経験した場合は、最も高い基準を記録してください。  
(例：月曜日にCで金曜日にAとなったら記録はAとする)。

各水準の全項目を経験できれば良いですが、必ず実施しなくてはならないわけではありません。

また、右に記録基準がありますが、実施項目全てAでなくてはならないということもありません。

可能な範囲でより多くの項目をAにできることが望ましいことです。

学生氏名： \_\_\_\_\_

**<記録基準>**

- ・ C：見学した場合
- ・ B：指導者の指導下/監視下で**一緒に**実施した場合
- ・ A：指導者の指導下/監視下で**独力**で実施した場合
- ・ 空白：未実施

※見学および評価実習で経験した項目には、それぞれの期間で経験した上位基準が記してあります。

水準Ⅰ項目：指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目。									
項目		1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
動作介助	基本動作、移動動作、移乗介助								
	体位変換								
リスク管理技術	スタンダードプレコーション※								
	症状や病態の観察								
	バイタルサイン測定								
	各種モニター評価								
理学療法 <b>評価</b> 技術	情報収集								
	画像評価（X線、MRI等）								
	統合と解釈								
	臨床推論								
	問診、視診、触診、聴診								
	形態計測								
	感覚検査								
	反射検査								
	筋緊張検査								
	関節可動域検査								
	筋力検査								
	協調運動機能検査								
	高次脳機能検査								
	脳神経検査								
	姿勢観察								
	動作分析（起居動作）								
	動作分析（歩行）								
	バランス検査								
	QOL評価								
	ADL評価								
	IADL評価								
	疼痛評価								
	整形外科テスト								
	BRS検査※								
	脊髄損傷の評価								
	運動耐用能の評価※								

※スタンダードプレコーション：「標準予防策」患者および周囲の環境に接触する前後に手指衛生を行い、血液等に曝露するおそれのあるときは個人防護具を用いること。

※BRS検査：Brunnstrom recovery stage test.

※運動耐用能：6分間歩行テストなど。

水準Ⅰ項目：指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目。									
項目		1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
理学療法 <b>治療</b> 技術	関節可動域運動								
	筋力増強運動								
	全身持久運動								
	移乗動作練習								
	移動動作練習								
	ADL練習								
	IADL練習								
	ホットパック、パラフィン療法								
	寒冷療法（クリッカー、アイスバック等）								
渦流浴療法									
義肢・装具・福祉用具	装具・用具の使用								
	装具・用具の使用法の指導								
その他	ポジショニング								
水準Ⅱ項目：指導者の補助として実施されるべき項目および状態。									
項目		1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
リスク管理技術	創部管理								
	廃用性症候群の予防								
	酸素ボンベの操作								
理学療法 <b>評価</b> 技術	診療録（カルテ）記録								
	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目 大掛かりな機器を使用した検査 (心肺運動負荷試験など)								
理学療法 <b>治療</b> 技術	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目								
	治療体操や離床練習								
	発達促進手技※								
	超音波療法								
	電気刺激療法								
	CPM※								
義肢・装具・福祉用具	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目								
その他	装具・用具の調節								
その他	ポジショニング								
水準Ⅲ項目：見学に留めておくべき項目および状態。									
項目		1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
理学療法 <b>評価</b> 技術	患者家族への説明								
	精神心理検査								
理学療法 <b>治療</b> 技術	喀痰吸引								
	人工呼吸器の操作								
	生活指導								
	患者教育								
	感染リスクのある水治療法								
	電気刺激療法								
	近赤外線療法								
がん治療									
その他	ポジショニング								

※：発達促進手技：ホイタ法、ポバース法など。

参考：日本理学療法士協会



※：CPM：Continuous passive motion.

日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 実習指導者名（自署）： \_\_\_\_\_ 印